



(死海文書が入っていた壺とイザヤ書)



阿佐ヶ谷教会

信友会会報

1月例会報告（2019年1月27日開催）

聖書研究

イザヤ書

昨年の4月からスタートした2018年度信友会活動も終盤となりました。今年度は「預言者」をテーマに古屋治雄牧師や大島力先生からは多くの信仰の歴史的学びを深めることができました。8月には「シオン会との合同例会」、9月は奥山兄による「キリスト教絵画の楽しみ」など興味深い例会もあり、変化に富んだ年でもありました。2月には全員参加の新しい選挙制度もスタートしました。より多くの会員が例会や信友会の活動に参加されるように努力して参りたいと思います。もうじき桜の花もほころび始めます。皆さま良い新年度をお迎えになりますように。

在 主 (Y.H)

『預言者イザヤ』—その時代と信仰—

大島 力先生

イザヤ書は、旧約聖書のなかで預言書の筆頭をかざり、66章という最大の預言書になっています。預言者は、イスラエルの歴史的、政治的事情を背景に神から召命を受けて為政者や民の誤りを糾す者です。イザヤ書は歴史的には最も古い預言書ではありません。栄華を誇ったダビデ、ソロモンの王朝が終わり次の時代の紀元前926年にイスラエルは南北に分裂します。預言書として編纂されたなかで一番古いアモスや次のホセアは、北イスラエル王国を舞台に活躍し、少し時代が過ぎて、イザヤとミカが南のユダ王国で預言者として活躍しています。新約聖書で旧約聖書の引用が一番多いのは詩編で、次がイザヤ書です。



イザヤ書は一人の預言者が書いたものではなく長い歴史の中3人で書き上げられています。第一イザヤ書は、1～39章まで、紀元前8世紀の王国が南北に分裂していた時代です。預言者イザヤは別名エルサレムのイザヤと言われています。第二イザヤ書は40～55章、紀元前6世紀のバビロン捕囚の末期で、無名で匿名の預言者ですが、捕囚からの解放を語った魅惑的な預言者です。第三イザヤ書は56～66章で少し時代が下って紀元前6世紀～5世紀のエルサレム帰還後の荒涼とした故郷の中での希望を語っています。

第一イザヤの出自

第一イザヤの書に戻りますが、預言者は通常召命を受ける前は様々な職業についています。アモスは牧羊業者でアモス書の冒頭にテコアの牧者の一人と言います。ミカも自由農民と思われ、預言書の中で使われる「警え」は羊飼いの用語が多く使われています。

エレミヤはアナトトの祭司の子と言っています。イザヤ書の冒頭に「アモツの子イザヤが、ユダとエルサレ

ムについて見た幻」と書かれます。イザヤはユダ王国（南王国）の書記官のような立場にあったようで、預言書の中に外交上の政策、展望や計画などの言葉が使われています。

南北分裂後の南王国は、北イスラエル王国の政権篡奪が続き王の交代が多かったのに比べて、小さいながらもダビデの後継の王国として安定した政権でした。イザヤは王宮に近かったため預言者の中で唯一王と直接話し合える立場にありました。南王国はウジア王の時代は安定した政権運営で長期間続きましたが、紀元前 736 年にウジア王の死により政権の危機が始まります。時代はメソポタミアでアッシリア王国が強大化して南下政策をとるようになります。イスラエルの両国はそれにどう対応するかが喫緊の課題になります。



南北分裂後の南王国は、北イスラエル王国の政権篡奪が続き王の交代が多かったのに比べて、小さいながらもダビデの後継の王国として安定した政権でした。イザヤは王宮に近かったため預言者の中で唯一王と直接話し合える立場にありました。南王国はウジア王の時代は安定した政権運営で長期間続きましたが、紀元前 736 年にウジア王の死により政権の危機が始まります。時代はメソポタミアでアッシリア王国が強大化して南下政策をとるようになります。イスラエルの両国はそれにどう対応するかが喫緊の課題になります。

ウジア王の死、イザヤの召命

第 6 章にイザヤの召命の記事があります。ウジア王が死んだ年に、イザヤは幻を見ます。

1 節「わたしは高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。」3 節「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地のすべてを覆う。」5 節「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は王なる万軍の主を仰ぎ見た。」8 節「その時わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」9 節「行けこの民に言うがよい よく聞け、しかし理解するな よく見よ、しかし悟るな、と。この民の心をかたくなにし 耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく その心で理解することなく 悔い改めていやされることがないために」。5 節で、聖なる神の前で自らの破れや罪悪感に満ちた自分を見たが、7 節で火鉢の火を唇に触れて、イザヤの咎は取り去られ罪は赦されたのです。そして主の要請に「わたしはここにおります」と応えています。イザヤは紀元前 736 年から 701 年ころまで預言者として活躍したと考えられます。イザヤが遭遇した 5 つの課題を中心にイザヤがいかに行動したかに触れます。

シリア・エフライム戦争 (7 章~9 章)

これは紀元前 730 年ごろで、アッシリアの侵攻に対抗するために南王国の北のエフライム（北王国）がダマスコ周辺のアラム（今のシリア）と同盟したのです。その同盟の話はユダ王国に衝撃を与えました。7 章 2 節に、「王の心も民の心も、森の木々が風に揺れ動くように動揺した」と書かれています。両国は南王国にも同盟に入るように迫りますが、南王国のアハズ王はアッシリアへの朝貢により親アッシリアの立場から国を守る方を選択しようとしています。4 節に、主はイザヤにアハズ王に会って次のように預言させます。「落ち着いて静かにしていなさい。恐れることはない。」両国が図って南王国を攻めようとするが成就しないと云います。南王国には、同盟に加わらず、アッシリアにも擦り寄らないで、ヤハウエを信頼して中立政策をとり、静かにしていなさいというのです。王なる主に信頼するように云っています。

北イスラエル王国の滅亡

北王国は紀元前 722 年にアッシリア王国によって滅ぼされます。これは南王国にとっても重大な危機でした。シリア・エフライムの同盟によってアッシリアに対抗した両国は強大なアッシリアの攻撃により滅亡しました。7 章のインマヌエルの預言の最後に、北イスラエルの滅亡に触れます。16 節から「その子が災いを退け、幸いを選ぶことを知る前に、あなたの恐れる二人の王の領土は必ず捨てられる。主は、あなたとあなたの民と父祖の家の上にエフライムがユダから分かれて以来、臨んだことのないような日々を臨ませる。アッシリアの

王がそれだ。」神は預言を聞かないでアッシリアの侵攻に政治的同盟という現実路線に走った両国をアッシリアによって滅ぼし、9章11節には「しかしなお、主の怒りはやまず 御手は伸ばされたままだ。」とあります。この言葉は10章4節までに4回書かれています。

ホセア書では、ヤハウエ信仰をないがしろにして土地の神であるバアル信仰を取り入れることが、ホセアと神殿娼婦であったゴメルとの結婚、またゴメルが他の男に走るというすさまじい情景によって表現されています。そしてバアル神に頼った国は神によって裁かれます。神はアッシリアを用いてまで兄弟国を滅ぼしたとイザヤは受け取らざるを得ませんでした。神の代理者として用いるとは言うておらず、10章5節でアッシリアの無際限な侵略には怒りの言葉を述べます。

アシュドドの反乱

アシュドドは地中海沿いのペリシテの小さな都市国家で、アッシリアに反抗しました。

イザヤは、アッシリアが個々の反乱に残酷な鎮圧を行うことをみて、巻き込まれないよう進言しています。14章28節から進言があり、アッシリアへの反抗には同調せずに落ち着いて静かにしていなさい。恐れることはないと言っています。32節に「シオンの基を据えられたのは主である。苦しむ民は、そこに身を寄せる。」と応えるよう言っています。

センナケリブとイスラエルの包囲

紀元前701年にエルサレムは、センナケリブ王の率いるアッシリア軍に完全に包囲されました。アハズ王の後を継いだヒゼキア王は、アッシリアとの関係を断ってエジプトと同盟を結びました。31章1節「災いだ、助けを求めてエジプトにくんだり、馬を支えとする者は。彼等は戦車の数は多く 騎兵の数がおびただしいことを頼りとし イスラエルの聖なる方を仰がず 主を尋ね求めようとしない」。エジプトの戦車と騎兵に頼ろうとしたことへの批判と誤りを指摘しています。アッシリア軍の包囲は完全で、エルサレムは身動きが取れない状況でしたが、アッシリア軍がなぜか突然撤退します。その理由は解っていませんがアッシリアの国内事情ではないかという説が有力です。1章2節～9節のユダの審判で、村々は軍隊に踏み荒らされて荒廃し、8節に「そして、娘シオンが残った。包囲された町として。ぶどう畑の仮小屋のように きゅうり畑の見張り小屋のように。もし万軍の主がわたしたちのためにわずかでも生存者を残されなかったなら わたしたちはソドムのようになり ゴモラに似たものになっていたであろう」と記されています。国全体を蹂躪され、エルサレムだけがかろうじて残されたのです。滅んで当然の南王国が神の恵みによって残されたのです。

イザヤは神からの召命を受けて何をなしたか。真の王は神で、王的な支配を行ってくださること。神の救いの計画に絶対的に信頼を置いていることです。王への進言として7章4節「落ち着いて静かにしていなさい。恐れることはない。」と語りかけています。



30章15節「あなた方は立ち返って静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」。主への信頼を求めています。これは、矢内原忠雄先生の愛読聖句。戦後の平和と民主主義の確立に奔走された人物です。
(文責：玉澤武之)

<お知らせ>

- ・信友会報のバックナンバーは阿佐ヶ谷教会ホームページから読むことができます。
<http://www.asagaya-church.com/shinyuukai/backnumber.html>
- ・この号から、印刷は高速プリンタ「オルフィスFW」を使用しています。